

蒜場山～飯豊本山 山行報告

【山 域】飯豊連峰

【ルート】蒜場山～飯豊本山

【登山方法】雪山登山

【参加者】CL 柘植、吉川（記録）

【行動日】前夜発 5 月 3 日～6 日



【行程】

5/2 土気 20:00ー関越道經由巻潟東 ICー道の駅花夢里にいつ(仮眠)

5/3 道の駅⇒JR 新津駅西口駐車 6:16⇒JR 新発田駅 6:50⇒加治川治水ダム手前琴沢出合ゲート 7:30ー
加治川治水ダム 8:20ー岩岳 11:05ー烏帽子岩 11:40ー蒜場山 13:45ー14:30 幕場 1065m 付近

5/4 幕場 4:45ー稲葉の平 7:15ー丸子カル 9:10ー烏帽子山ノコル 11:10/11:45ーマグソ穴峰 14:35
ー15:45 幕場 1410m 付近

5/5 幕場 4:50ーキンカ穴峰 7:00ー実川山 8:40ー西大日岳 10:35ー大日岳 11:15ー御西岳 13:40ー飯豊山
15:05ー15:25 本山小屋

5/6 本山小屋 4:50ー切合小屋 7:10ー三國小屋 9:20ー川入登山口 12:00ー川入資料館（旧小学校）13:15
⇒タクシーJR 山都駅 14:00/15:00⇒JR 新津駅 17:00ー巻潟東 ICー関越道經由帰葉

【内容】

5/3 （晴） JR 新津駅より電車とタクシーを乗り継いで加治川治水ダムへ向かう。ダム 3 km ほど手前のゲートにて、タクシーの運転手に見送られ、林道歩き開始。青空の下、そよ風を感じながらも、暑さが予想される。途中、長い竹竿の先に鎌を付けた道具で崖のぜんまい採りの人や、自転車に乗りながら山菜取りの人に挨拶しながら舗装された道を行く。焼峰山登山口を見て、ダム堤を渡るとき、前方に蒜場山が見える。ダムの水位はかなり高いらしく、桜の木の根元は水に浸かり、湖面にピンク色の桜と新緑を映して綺麗だ！登山口に 1 台の自転車がいたので一人は山に入っているだろう。イワウチワやカタクリの花の咲く急な登山道を岩岳まで登ると、雪を踏むようになる。岩岳の下りで、蒜場山まで行って来たと言う自転車の持ち主に会う。（自転車じゃなくバイクですと、訂正される）昨日、今日と二組入山しているとの事。先行者がいる事に心細さは軽減される。雪もまばらになり、痩せ尾根の岩場連続で、烏帽子岩を通過し、明日振り返る度、よく見ることになる台形の蒜場山の山頂に立つ。黒御影の立派な石柱に蒜場山と刻まれていた。地元の山岳会のご苦労だろうと思われる。

正面に黒々とした烏帽子山、その奥に二王子岳から飯豊主脈に連なる山波の見事な景色に感動し、又細かく蛇行し、アップダウンを繰り返しながら谷に下り、黒い尾根から、白い巨大な山に這い上がって行く道のりを辿ると闘志も湧くが、心細さもよぎる。蒜場山の北東面のカール状を大きくジグを切りながら一気に 300m を下り、蟹沢をうまく越して、本来の尾根に乗った。ここは繋がる稜線から外れ、谷に吸い込まれるような恐怖と、雪崩の心配でルート採りがわからなく、リーダーの GPS の後を追った。通過してみればなるほどであった。尾根に乗って間もなくブナ林の雪原を今夜の幕場にした。昨晩は高速道路の事故渋滞に会い、2 時間余りの睡眠にしては、今日一日よく頑張れた！



加治川治水ダムの湖面



登山道から望むまだ遠い蒜場山



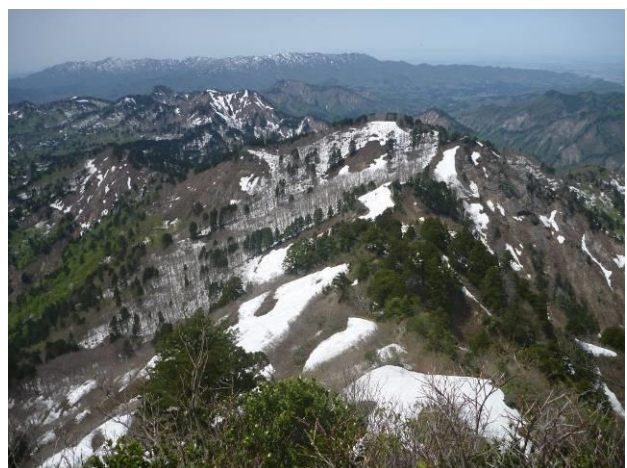
烏帽子岩が立ちはだかる



烏帽子岩の鎖場を通過する



烏帽子岩の山頂



登ってきた尾根を振り返る



蒜場山の山頂

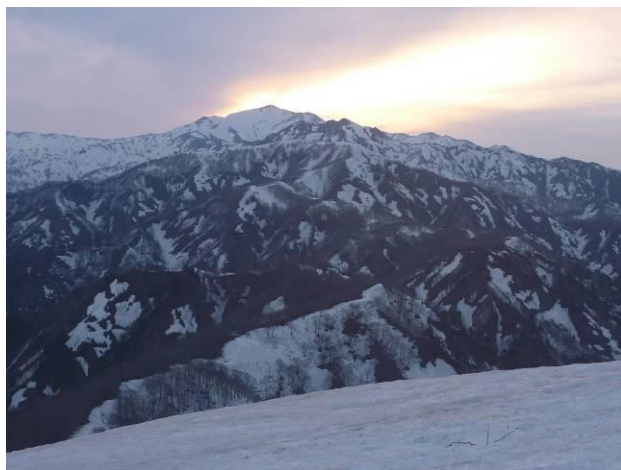


本日の幕場を目指して蟹沢の源頭を下る

5/4 (晴) 早朝なのに、腐った雪は締まってない。快適とは言えないが、藪よりましである。暫く雪を繋いで進み、藪の薄い所入ってみるとカタクリやイチゲの花咲く、踏み跡があった。アップダウンを繰り返しながら高立山の袖を巻き、踏み跡を辿る。再び開けた雪稜に戻ると直に、ブナ林の雪原がひろがる稲葉ノ平を通過する。この辺りは、谷筋の稜線と言ったところで、振り返り、両肩を広げる蒜場山を見上げる。蛇行とアップダウンを繰り返しながら雪稜を進み、丸子カルの下りになると、黒々とした烏帽子山を直ぐ近くに望むようになる。稜線上部の雪は落ちている。ぎりぎりまで雪を繋ぎ、最後は藪漕ぎをして、烏帽子山の鞍部の草地に飛び出てホッとする。リーダーは最初から稜線から外れている烏帽子南峰は省略して、縦走路上にある北峰を目指す算段であったようだ。ただ目の前の小ピークに登ってみるとここは南峰手前の小ピークだったようで、ここでルートミスに気づき、元の草地に戻ってから烏帽子山北峰の稜線上に立つ。南峰の北面は、谷から岩盤をむき出しに天を衝いている。「岳人」選定マイナー12名山に入っているだけあって立派な山容である。間違えたまま登ってしまいたかった。急斜面の雪稜を下り、マグソ穴峰への登りの藪を嫌って、尾根の反対側に行ってみると、雪を繋いでいる踏み跡を見つけ、これを追って下ってしまい、行き詰った。トラバースも大変なので稜線を目指して登るが、これが最悪！灌木と背丈ほどの笹を漕いでなんとか稜線に戻った。そろそろ幕場を探さないといけないが、進行方向はまだまだヤブと危うい雪庇の尾根が続く。藪を登ってマグソ穴峰からの下りは、イヌツゲやマンサク、ツルなどの藪漕ぎが厳しかった。もう時間がないので、下りきった鞍部の雪底上を今日の幕場とし、テントを張る。



初日の幕場（樹林に囲まれたよいところ）



幕場先の雪原から遠く大日岳方面



振り返ると蒜場山がもう遠くに



前方には中盤の雄：烏帽子山が迫る



目の前の小ピークに登ってみるが



向こうに見えるのが主稜線らしい（失敗！）



烏帽子北峰から見た南峰（手前が小ピーク）



マグソ穴峰からキンカ穴峰につながる尾根筋

5/5（晴）今日はようやく、谷から飯豊の屋根まで700m余りを登り上げる。

まずは、昨日の続きの猛烈藪漕ぎからだ。しかしながら、朝一番の藪漕ぎは、昨日より楽な気がするが、元気ゆえに藪に反抗するとしっぺ返しにあう。藪の中でもアイゼンに傷ついた枝に、先行者の軌跡を知ることもある。そんな事を思いながら、辛い藪を登りきると、時々雪が出てくる。賞味期限の切れた雪庇と藪尾根に復帰の繰り返しを多くしてきたが、この時も体力を消耗する。キンカ穴峰で向きを変え実川山への登りで藪から雪稜歩きとなる。雪稜を下って来るグループに会った。薬師岳～西大日～大日岳と素晴らしいパノラマに向かったの雪稜歩きは、よくぞここまで来れたと感無量である。



二日目の宿の朝



昨日越えてきた山並み（右はたぶん烏帽子山）



藪をきらって危うい雪庇をギリギリまで活用



ようやく藪から開放される



薬師岳はもう大日岳と肩を並べる高さだ



二王子岳から伸びる長大な尾根（いつか・・・）

飯豊最高峰の大日岳山頂に立ち、二王子から飯豊主稜線交わる稜線、北に延びる主稜線、これから進む飯豊本山への稜線を望み、大満足で山頂を後に、大日岳の急斜面を一気に下り、御西岳～駒形山へと進む。桧山沢に張り出す尾根の雪庇は、生クリームをヘラでなぞったようにおいしそうに見えた。飯豊本山を経て、目的の本山小屋に到着する。小屋は二階の積雪期用出入口から入る。小屋は暖かく、広々していて今晚は快適に過ごせそう、と思ったのは束の間、夜は風が強く睡眠を妨げられた。とは言え、温かく小屋はありがたかった。



ついに最高峰の大日岳に到着



大日岳から御西岳に向かう



御西岳から駒形山へ向かう



飯豊主稜線カイラギ岳方面の山並み



飯豊本山の山頂



本山小屋にて

5/6 （曇り、時々小雨）今日は、一般登山道を下る。これがなかなかの苦勞で、腐りきった雪を拾うのに足を落とされる。岩稜帯を進み、草履塚から切合小屋の広い雪原の下りは、一般登山道だけあって赤旗の道標があり迷う事はない。種蒔山を通過して怪しげな雪稜を歩いて三国小屋に辿り着いた。三国小屋の先の痩せ尾根岩稜帯は、かなり危うい雪を綱渡りの心境で繋ぎ、今回の山行で一番の難所であった。地藏山を巻きブナの稜線を辿り、山肌の新緑と足元のイワウチワに癒されながら下る。途中大きめのザックを置いて、ゆっくりお茶を嗜んでいる二人組のパーティーを見かける。今日は、三国

小屋迄行けば良いですが・・・と言っていたが、これ程ゆったり、まったりした山歩きもいいかな？
などと思ってしまった。沢音も随分近づいてようやく登山口に降り立った。



本山小屋からの夜明け



大日岳方面の Morgenrot



切合小屋から三国岳方面への尾根



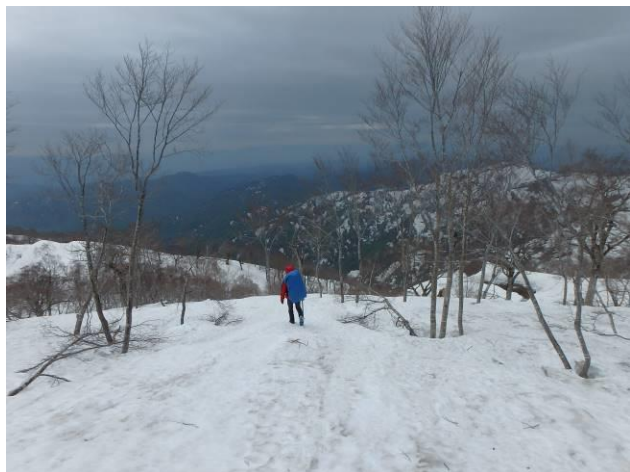
切れ落ちた雪庇の下降はなかなか厳しい



三国小屋からの下降はかなりハード



靴幅リッジを慎重に進む



この尾根を下れば長かった縦走も終わりだ



川入集落に向かう

川入の集落の外れで、作業をしている人に挨拶して通してもらう。その後、この人達にタクシーを呼んでもらう事になり、大変ありがたかった。集落は、民宿の看板のある家は点在するものの、人のいる気配がなく、廃校になった小学校が、今は資料館になって解放されているものの人がいない。待つこと 40 分位でタクシーにて **JR** 山都駅に行く。運転手さんの話では、山の上では、携帯が通じるので、登山者の現在地を知らせれば、運転手は、下山時間を把握しているので迎えに行けると話していた。作業していた方のご厚意に感謝します。山都駅前のこだわりラーメンを食べ、2 時間余り電車で揺られ **JR** 新発田駅の駐車場に到着。濡れた靴と荷物に解放され、次は、最寄りの風呂で綺麗サッパリして遠路帰宅する。前半は、1000m 前後の標高の低い尾根を縫うように繋ぎ、藪も厳しい所も多くあった。雪も尾根からずり落ちている場所が多く亀裂も沢山入って入るような所も歩いた。前日の先行者の踏み跡があったので歩いたが、気温も高めだったので不安がおおきかった。又、飯豊本山からの下りも、岩稜帯、鎖場、の通過は、雪の状態が悪く緊張した。

そう簡単に踏み込めない山域に同行できて貴重な山歩きを体験した。リーダーに感謝します。

報告：吉川りつ子